

人生 100 年時代。自分らしく健康な毎日を過ごすために必要なこと 本当の健康を考えるゼミナール（福岡会場）レポート

2022 年 4 月 28 日(木)、(株)ビーアンドエス・コーポレーションは、東京・横浜で開催している「本当の健康を考えるゼミナール」を福岡で初めて開催しました。会場は手指の消毒やマスクなどの感染症対策と、ソーシャルディスタンスを実施。50 名を超える方にご来場いただきました。



アクロス福岡 7 階・大会議室にて

私たちは細菌が生きる環境をあたえ、細菌はたくさんの物質を創り出すー細菌と人との共創関係

第 1 部 ～細菌と人との共創関係～

(株)ビーアンドエス・コーポレーション／ゼミナールチームリーダー 坂上 圭

「地球にくらす細菌の数は、私たちが想像する数をはるかに超えています。みなさんが持つ細菌のイメージは“汚い・臭い・毒素をつくる”そんな悪いイメージがあるのではないのでしょうか。でも特に日本人はその細菌を、味噌や納豆などの発酵食品として活用してきました。さらに、良い細菌には悪い細菌を寄せ付けない、土にすみついて土壌をつくり野菜を育てる、そんな役割もしています。私たちはお母さんのおなかの中から生まれるときに体を守る乳酸菌をもらい、その乳酸菌が創り出す物質に保護されながら成長します。生まれた後も多くの細菌に触れて腸内細菌叢ができていきます。私たちは細菌に生きる環境をあたえ、細菌は私たちにたくさんの物質を創り出す。細菌と私たちは「共生」ではなく、共に健康や幸せを創り出す、「共創」関係が成り立っているのです。



坂上の娘が小学生のころに描いた絵で、家族で乳酸菌生成エキスに親しんでいる様子もご紹介しました

地球上でもっとも細菌が密集しているところ、それが人の腸内です。腸内では細菌たちが短鎖脂肪酸をはじめとした、たくさんの良い物質を創り出してくれています。ですので、腸内細菌が乱れると多くの病につながってしまうことがわかっています。人はもちろん動物も昆虫もです。生き物は腸内細菌がないと生きていけません。理想の腸内細菌叢とは、種類と総量が多いこと、バランスがとれていることです。生まれてすぐの細菌叢が乳酸菌をきっかけにつくられていくように、乳酸菌が創り出す物質を体に取り入れることは腸内細菌叢をととのえることにつながります。」(坂上)

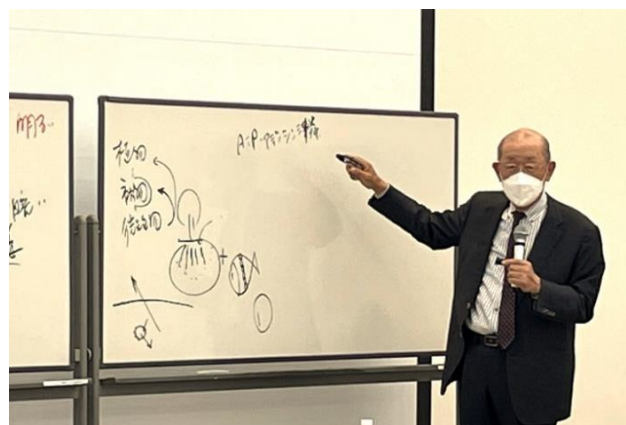
この後、『乳酸菌生成エキス』の、飲むだけじゃない！様々な活用方法や、研究情報についてもお伝えさせていただきます。

『乳酸菌生成エキス』の成分、菌体物質のもととなる細胞とは

第2部 ～自然から学ぶ『乳酸菌生成エキス』のハタラキ～ (株)ビーアンドエス・コーポレーション／会長 福井 正勝

「約 35 億年前、海(水)の中で生命が誕生しました。細胞膜に囲われた「細胞」です。これにより細胞には内側と外側ができました。生きていくためには細胞の内側に栄養を補給する必要があります。そこで細胞の誕生とともに栄養吸収と排泄、そしてさらに免疫力が備わりました。その後、単細胞から多細胞に進化し、海から上がり、現在の微生物、植物、動物になりました。原点は同じですから、これらの細胞は基本同じかたち、性格です。

人は 37 兆個の細胞が集まった生命体です。例えば、魚も細胞の集まりですが、魚が死んでも細胞のエネルギー = ATP (アデノシン三リン酸) がある限りその細胞は生きています。その後 ATP が無くなると、細胞は破裂します。これが細胞の死です。細胞の死と生命体の死は別なのです。私たち生命体が個性を持っている細胞をまとめて生きることができるのは、生命力 = 私たちの体にそなわっているハタラキなのです。



ホワイトボードを使いながら話す、弊社会長の福井

では、細胞膜とはどんなものなのでしょうか？細胞膜はリン脂質からできています。リンは水に溶け、脂質は水に溶けない性質をもっています。細胞は水の中で生まれました。この水に溶けない脂質が内側集まり、水に溶けるリン部分が外側に集まって、細胞膜ができたのです。

細胞には核があります。この核の中に染色体があります。この染色体は遺伝に関係があり、23 対(つい)46 個あります。受精卵はお母さんの 23 個、お父さんの 23 個で対になってできています。これによって、個性が生まれていきます。

一方 iPS 細胞とは、自分の組織からとった細胞を、受精卵のようなあらゆる組織に成長させる万能(あらゆる組織に成長が可能)な細胞に戻したものです。受精卵を使用するわけではないので生命的な問題はなく、成長して組織になったとしても、自分の細胞なので免疫反応の問題もない。時間を巻き戻すような山中教授の画期的発見なのです。」(福井)

今回は、細胞分裂がどのように行われるかなど、細胞の全てをお話する、完結編です。細胞のことを知っていただき、『乳酸菌生成エキス』のハタラクについてお伝えします。

がんには完治はないけれど、今は治療なく『乳酸菌生成エキス』と「笑顔」で過ごしています。

第 3 部 ～『乳酸菌生成エキス』愛飲者さまの体験談～

法師山様 (70 代・男性)、奥様

「9 年前、肝臓がんが大腸がんが見つかり切除手術をしました。その時期に妻がとにかく体にいいものにと、藤田紘一郎先生の本を読み、『乳酸菌生成エキス』のことを知ってゼミナールに参加しました。『乳酸菌生成エキス』は「免疫力強化の切り札」だと確信した私は、飲用をはじめました。もともと便秘気味で、病気の進行にともない便秘がひどくなりましたが、『乳酸菌生成エキス』は良い体感でした。がんの状態は悪く、肝臓がんは再発を繰り返し、大腸がんは肺に転移、さらに前立腺がんも発症。毎年のように手術を受けました。複数回の手術に耐えることができましたが、それは病状がよくない時に、いつもより 2 倍以上多く『乳酸菌生成エキス』を飲んでいただけに関係があると思います。

ここ 2 年は再発や転移の手術もなく過ごしています。がんには完治はありません。でも、薬に頼ることなく生活できるということは健康なんだと思います。これからも夫婦で『乳酸菌生成エキス』を飲み続けて、ともに「笑顔」を心がけようと思っています。」(法師山様、ご主人様)



貴重なお話をありがとうございました！

ご主人の軽快なお話と、隣でニコニコと微笑む奥様。がんの手術を 8 回も行ったとは思えない、とても和やかで温かい雰囲気会場が満たされました。福井よりがんとの付き合い方のお話も加わり、まさに「本当の健康とは何か」を考えるゼミナールになりました。

参加者さまのお声 ～ご来場者さまアンケート 〇 より～

- 細胞のお話から『乳酸菌生成エキス』の活用方法がよくわかり、勉強になりました。（50代・女性）
- 腸内細菌のハタラキの例えがわかりやすかった。（40代・女性）
- 皮膚にも『乳酸菌生成エキス』。今度試してみます！（60代・女性）
- 心の安定に大きく作用するということを知りました。最近、あまりストレスを感じなくなったのは、『乳酸菌生成エキス』のおかげ?!（60代・女性）
- 家族をがんで亡くしているのもあり、心配していました。体験者のお話を聞いて、とても励みになりました。『乳酸菌生成エキス』を飲み続けようと思います。（70代・女性）
- 体験談は、お話しして下さったことに感謝しております。身に沁みました。（80代・女性）
- 明るく生きること、イキイキした生活を送ることの大切さがわかったように思います。（50代・女性）
- これからの人生をこれまでよりもっと明るく生きます！（70代・女性）
- 細胞の命と生命体の命は別、ということが心に残りました。自分の体調を無理に治そう治そうと頑張っていた気持ちがふっと軽くなる瞬間がありました。ちょっと涙が出そうになるくらい心に響きました。（30代・女性）



<B&S コーポレーション・福岡営業所スタッフ>

ご来場いただきましたみなさま、誠にありがとうございました。
またのご参加をお待ちしております。

(株)ビーアンドエス・コーポレーション

※本資料記載内容(文章・写真など全て)の転載はご遠慮ください。